

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2017

課題番号：16K20855

研究課題名(和文) 保健師のキャリアをサポートするICT教育システムの開発

研究課題名(英文) Development of ICT system to support the career of Public Health Nurse

研究代表者

金藤 亜希子 (Kanefuji, Akiko)

広島大学・医歯薬保健学研究科(保)・助教

研究者番号：80432722

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、保健師のキャリアをサポートするために、保健師の職業的アイデンティティの形成を促すICT教育プログラムを開発することを目的とした。経験年数を割付因子に、eラーニングと集合研修の2群によるRCTを行い、新任保健師の職業的アイデンティティ形成を促す教育方法を検討した。28名へ教育を行った結果、職業的アイデンティティの変化は2群間で差は認められなかった。eラーニングにおいても職業的アイデンティティの形成に必要とされる自己の活動のリフレクションが促される事が推察された。eラーニングは個人の意欲に影響される学習方法であることから、学習者の意欲を持続させる工夫の検討が必要である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop an ICT education program for public health nurses to develop Professional Identity. The number of years of experience was conducted by two groups of e-learning and group training, and novice public health nurses were examined for the education method. As a result of education to 28 people, there was no difference between the two groups. e-learning students were able to reflect their own activities. Because e-learning is a learning method influenced by an individual's motivation, it is necessary to consider a device that will sustain learners' motivation.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健師 人材育成 eラーニング 職業的アイデンティティ

1. 研究背景

近年、自治体に勤務する保健師（以下、保健師）は、複雑・多様化した地域の健康課題や住民ニーズだけでなく、地域包括ケアシステムの構築等の新しい体制への対応が求められており、質の向上が課題となっている。専門職は、その活動において職業的アイデンティティ（以下、Professional Identity: PI）の確立が必須である。しかし、昨今の新任保健師は、日々の業務に追われ、活動への意欲を減退させているという報告も見られ、PIの確立が十分では無いことが予測される。また、保健師の人材育成は、組織体制等の課題により従来の集合型研修開催が困難な自治体も見受けられる。そこで、集合研修のデメリットである時間と場所の制約が無い Web 学習（以下、eラーニング）を用いた PI 形成を促す学習方法を試行し、学習効果を比較することは、今後の人材育成方法の検討に有用といえる。

2. 研究の目的

本研究では、新任保健師の経験年数を割付因子とした eラーニングと集合型研修の 2 群によるランダム化比較試験により、新任保健師の PI 形成を促す教育方法を検討する。

3. 研究の方法

1) 研究対象

4 年制の看護系大学卒業生で、自治体に就職した保健師経験 5 年未満の保健師。

2) 対象者の割付方法

経験年数を割付因子とし、研究とは関わりのない第 3 者に依頼し、ランダム化した。

3) 実施方法

eラーニング講座

対象者は、ホームページの管理会社である Well 株式会社に対し eラーニングの利用に必要な利用者登録を行った後、4 週間講座を受講する。

集合型研修

研究対象者の都合を調整して日程を設定し、150 分間の学習に参加する。

4) 学習内容

事例を用いた相互学習とし、ファシリテーターがコーチングスキルを用いて進行する。両群で用いる事例及び従事するファシリテーターは共通とする。

5) 評価項目および方法

主評価項目

学習効果を、保健師の職業的アイデンティティ 12 項目を用いて評価する。本指標は、若手 B (H24~27: JP247925563) の研究から抽出したものであり、3 因子構造である。各項目 5 段階のリッカートスケールにより得点化し、点数が高いほど保健師の職業的アイデンティティが形成されていると評価する。この指標を学習開始直前、直後と学習終了 1 か月後の計 3 回アンケートによる評価した。アンケートは、eラーニング受講者は 3 回全てホ

ームページ上で回答し、集合型研修受講者は、研修当日に切手を貼った返信用封筒を手渡し、1 か月後に郵送を依頼することとする。

副次評価項目

学習内容への興味関心の程度および受講に対する感想を 2 群間で比較する。興味関心の程度は学習者の学習意欲を面白そうだった (attention)、「やりがいがありそうだった (relevance)」、「課題はできそうだった (confidence)」、「プログラムには満足した (satisfaction)」の 4 側面で評価するモデルである ARCS モデルを用い、感想は自由記載で求めることとする。

6) 分析方法

SPSS22.0J for Windows を用いて統計解析を行い、有意水準を $p < 0.05$ とした。2 群間の属性比較は Mann-Whitney の U 検定を用いた。PI の介入による変化の比較には 2-way repeated measures ANOVA を行い、群内変化の比較には多重比較法を用いた。ARCS モデルの比較は Mann-Whitney の U 検定を用いた。

受講の感想は質的記述的に分析した。分析結果については、保健師資格を有する研究協力者 1 名と質的記述的研究の経験が豊富な研究者へ確認することにより妥当性を確保した。

4. 研究成果

1) 参加状況

該当者 38 名の対象者のうち、研究への参加協力が得られた 28 名を、経験年数を割付因子として各群 14 名ずつとした (図 1)。

eラーニング群は介入中に 3 名、介入 1 か月後アンケート未回答者 2 名が脱落したため、9 名を分析対象とした。

集合型研修群は介入前に日程調整困難で 2 名、介入 1 か月後アンケート未回答者 1 名が脱落したため、10 名を分析対象とした。

2 群間の平均年齢、保健師経験年数に有意な差は認められなかった。

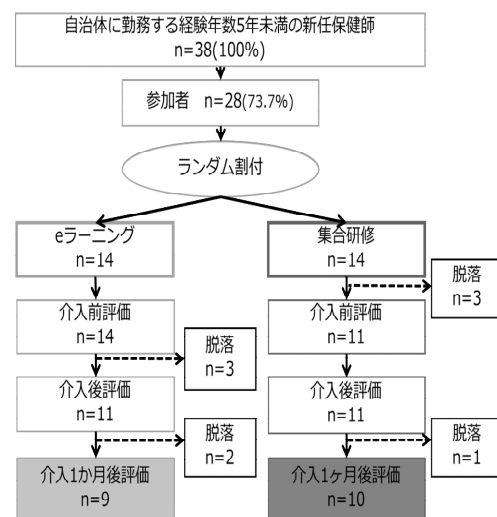


図 1 参加状況

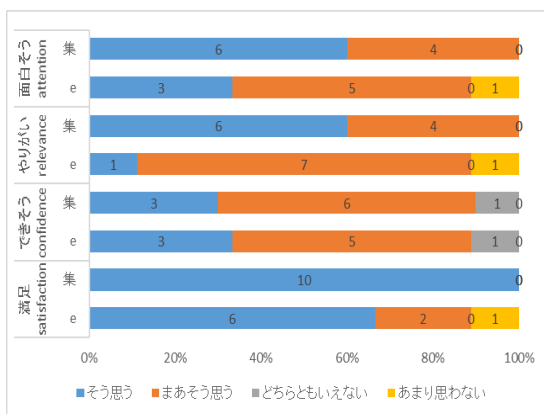
2) PI の変化

12 項目の総得点、因子、因子について、介入による得点の変化について 2 群間に有意な差が認められたが、多重比較法により分析した結果、時点の特定には至らなかった。因子については介入による得点の変化に有意な差は認められなかった。また、介入による 2 群間の効果の差については、いずれの項目も有意な差は認められなかった。

3) ARCS モデル

ARCS モデルによる評価を図 2 に示す。「面白そうと思った (attention)」「やりがいがありそうと思った (relevance)」「プログラムには満足した (satisfaction)」において集合型研修群の方が「そう思う」と回答した割合が高かった。100 点満点で調査した満足度は、集合型研修群が 95.91 ± 6.64 点、e ラーニング群が 75.56 ± 19.60 点であり、集合型研修群が有意に高い値を示した ($p=0.001$)。

表 1 ARCS モデルによる評価



集:集合型研修 (n=10), e:e ラーニング

4) 受講の感想

集合型研修群は、受講の感想に示された意見は次のようであった：「同じ新任期の保健師と話ができよかった」「保健師という職業について改めて大切にすべきところなど気づくことができました」「保健師としての気持ちや想いに焦点を当てた研修は初めて受講したが、とても良い機会だった」「とてもいい時間をすごせ、自分の成長につながる場だった」など。

e ラーニング群は、受講の感想に示された意見は次のようであった：「保健師である自分について振り返ることができ、どんな保健師になりたいかが具体的にになりました」「参加者の方の意見はとても参考になったと共に、共感出来る事も多く安心できました」「自分の空いている時間に受講できるのは、とても良い」「実際に集まらなくても一緒に進めることができていると思いました」「なかなか時間ができず、きちんと参加できな

った」など。

5) 考察

PI を表す 12 項目の得点の変化について、2 群間で差は認められなかった。全体の得点が e ラーニング群より集合型研修群の方が高かったことは、対面教育の効果が影響したと推察する。対面教育は、視線や表情など非言語的コミュニケーションが教育効果に作用し(大坊, 2005)、関係の良好な仲間との協同的な学習は、教育効果を高める (Roseth, Johnson, & Johnson, 2008)。本研究では、同じ大学を卒業した新任保健師という共感性の高い者を対象者としたため、対面による意見交換が PI 形成を促進したと考える。集合研修群の感想に、新任保健師同士と交流すること自体を評価する内容が記載されていたことから、対象者が対面教育の効果を実感した様子が推察された。

また、ARCS モデルについては、2 群とも高く評価していた。成人教育において、教育プログラムへの関心の高さは主体的な学習継続を促進させる(森田, 2005)ため、e ラーニングは、学びたいことを学びたいときに学ぼうとする成人の特徴(Knowles, 1980)を踏まえた介入方法として期待できる。

本研究は、人材育成における介入方法の示唆を得るために行った。研究参加者 28 名を 14 名ずつ 2 群に割付けたが、集合型研修群で 4 名、e ラーニング群で 5 名が脱落した。脱落者が出た背景として、集合型研修は従来の日程調整の困難さが障壁となり、e ラーニングは学習に対する動機付けが不十分だった可能性が考えられる。本研究で扱った PI は、実践を行うために直接必要な知識や技術ではない (Gregg, 2000) ため、学習することで即時に効果を実感することは難しい。e ラーニングへのアクセスは個人の自律性に委ねられているからこそ、学習意欲を持続するための支援方法の検討が必要である。

6) 結論

本研究の結果より、2 つの介入方法による介入効果に差は認められなかった。職業的アイデンティティは個々の意識であり発達するものであることを踏まえ、2 つの介入方法の利点を取り入れ、より効果的な介入方法を模索する必要性が示唆された。

文献

Gregg, 美鈴. (2000). 看護における 1 重要概念としての看護婦の職業的アイデンティティ. *Quality Nursing*,

6(10), 873-878

Knowles, M. (1980). *What is andragogy?, The Modern Practice of Adult Education : From Pedagogy to Andragogy* (Vol. 2nd ed.). New York: The Adult Education Company.

Roseth, C. J., Johnson, D. W., & Johnson, R. T.(2008). Promoting early adolescents' achievement and peer relationships; The effects of cooperative, competitive, and individualistic goal structures. *Psychological Bulletin*, 134, 223-246.

大坊郁夫. (2005). 社会的場面における人間の非言語的な行動と親和性の向上 (特集: インフォーマティブ・モーションから人間機械系の情報動作学へ). *バイオメカニズム学会誌*, 29(3), 118-123

森田孝夫. (2005). 医学教育論 教育原理,成人教育学,専門家(プロフェッショナル)教育理論より医学教育を考える. *Journal of Nara Medical Association*, 56(2), 81-90.

5. 主な発表論文等

[論文]

金藤亜希子, 中谷久恵, 大塚美樹: 行政機関に勤務する新任保健師の職業的アイデンティティの構成要素. *広島大学保健学ジャーナル*, 14, 1-10, 2017

[学会発表]

- 1) 金藤亜希子, 中谷久恵: 保健師の職業的アイデンティティを形成する e-learning と集合研修による教育効果の比較. 第 12 回医療系 e ラーニング全国交流会, 高松市, 2017, 12.
- 2) Akiko Kanefuji, Hisae Nakatani: Professional identity of public health nurses and relationship with the workplace environment. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars. Hong Kong, 2017, 3
- 3) 金藤亜希子, 中谷久恵: 自治体に勤務する保健師の職業的アイデンティティ形成促進に向けた e ラーニング教育の試み. 第 13 回広島保健学学会学術集会・第 17 回広島保健福祉学会学術大会, 広島市, 2016.10

6. 研究組織

(1)研究代表者

金藤 亜希子 (KANEFUJI, AKIKO)

広島大学.大学院医歯薬保健学研究院・助教

研究者番号 : 80432722